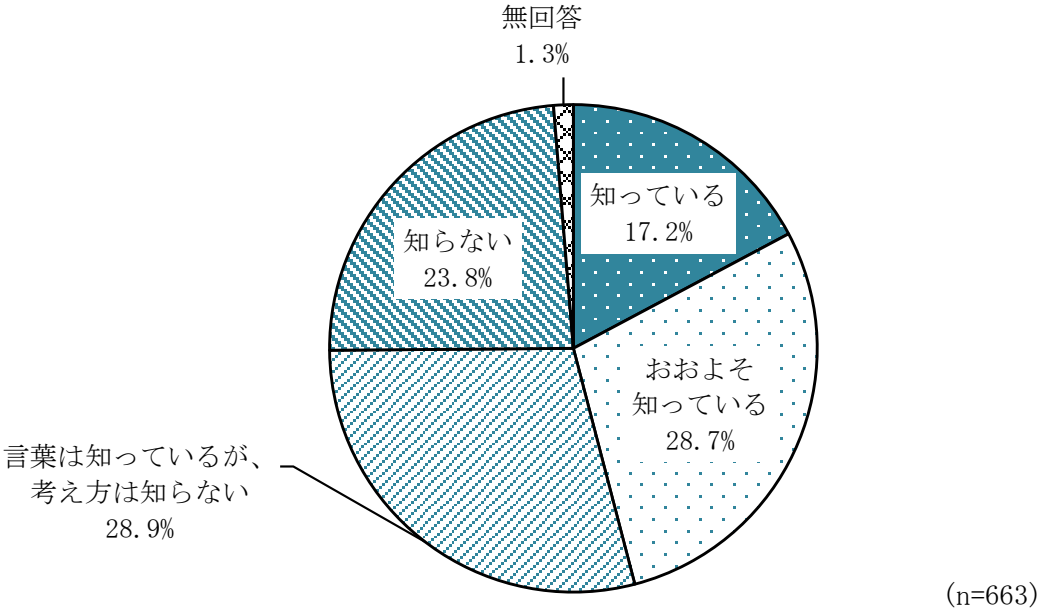
４．誰一人取り残されないユニバーサルデザインのまちづくりについて

（１）ユニバーサルデザインの認知状況

問　あなたは「ユニバーサルデザイン」を知っていますか。
あてはまる番号を１つ選び、○印をつけてください。



―――――　半数弱の市民がユニバーサルデザインを知っている　―――――

【全体結果】

ユニバーサルデザインを「知っている」または「おおよそ知っている」と回答した方は 45.9%となっています。

【属性別結果】（図 4-1 参照）

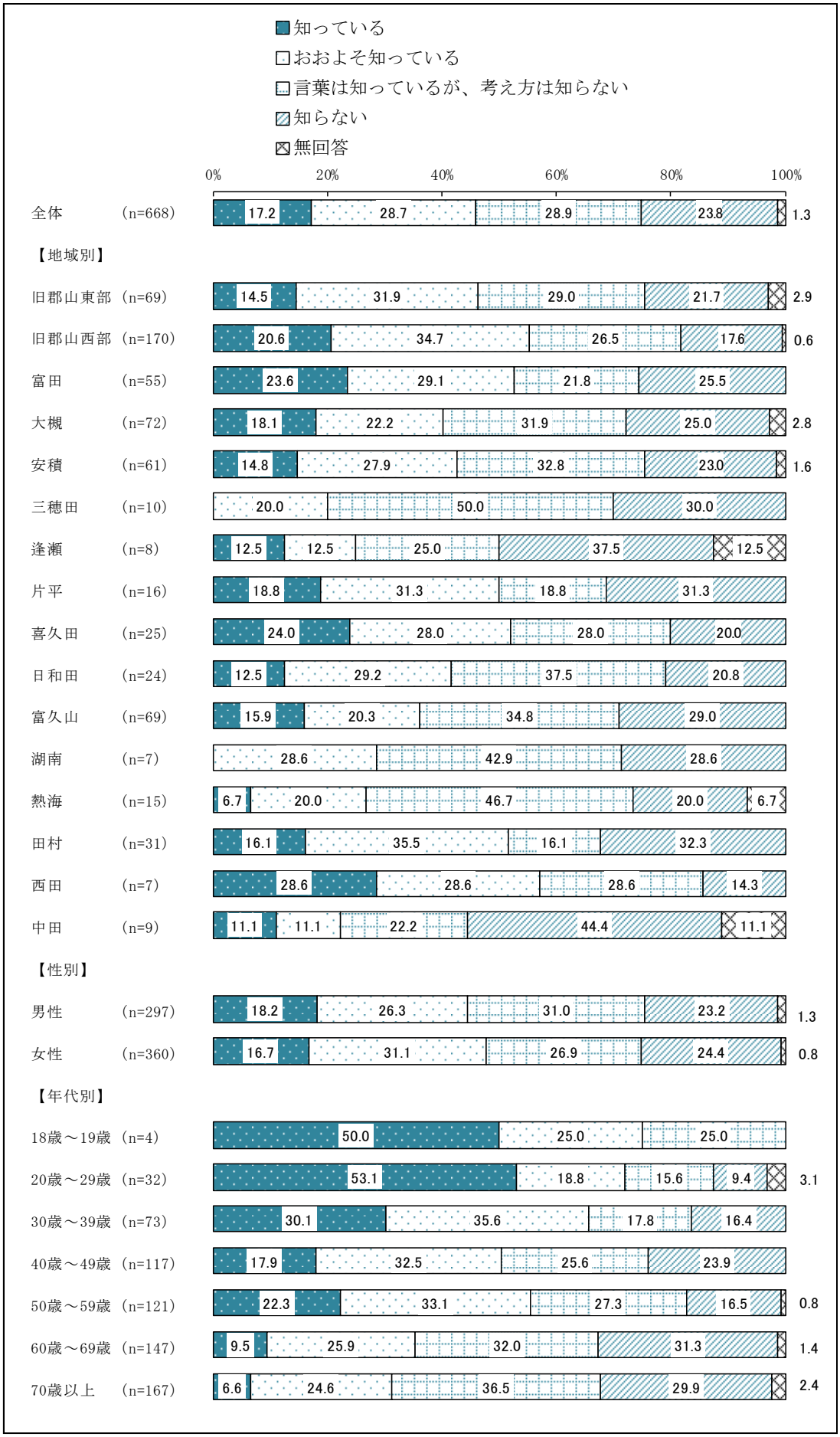
①　性別

「知っている」または「おおよそ知っている」と回答した方は、女性（47.8%）の方が男性（44.5%）よりもやや高くなっています。

②　年代別

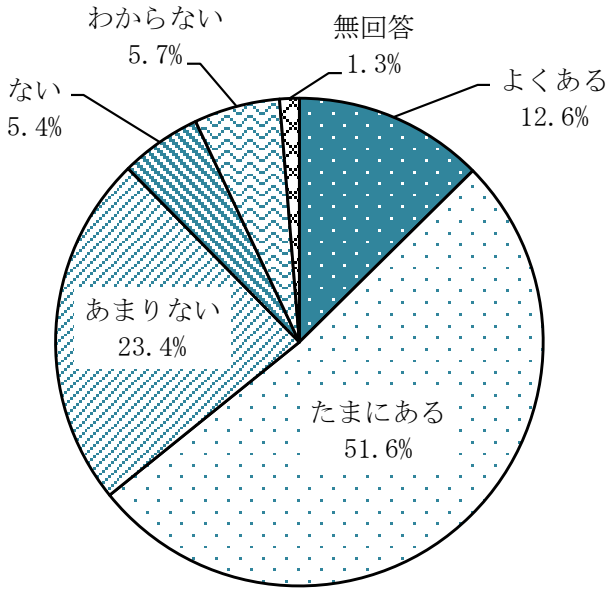
若年層ほど高い割合で「知っている」と回答しています。特に 20 代では半数以上が「知っている」と回答しています。一方で、高齢層では、「知らない」の割合が高くなっており、60 代以上では約３割が「知らない」と回答しています。

図４－１　ユニバーサルデザインの認知状況（地域別／性別／年代別）



（２）思いやりの心について

問　あなたは、周りの人の「思いやりの心」を感じることがありますか。
　　あてはまる番号を１つ選び、○印をつけてください。



(n=663)

―――――　６割強の市民が思いやりの心を感じることがある　―――――

【全体結果】

思いやりの心を感じることが「よくある」または「たまにある」と回答した方は 64.2%となっています。

【属性別結果】（図 4-2 参照）

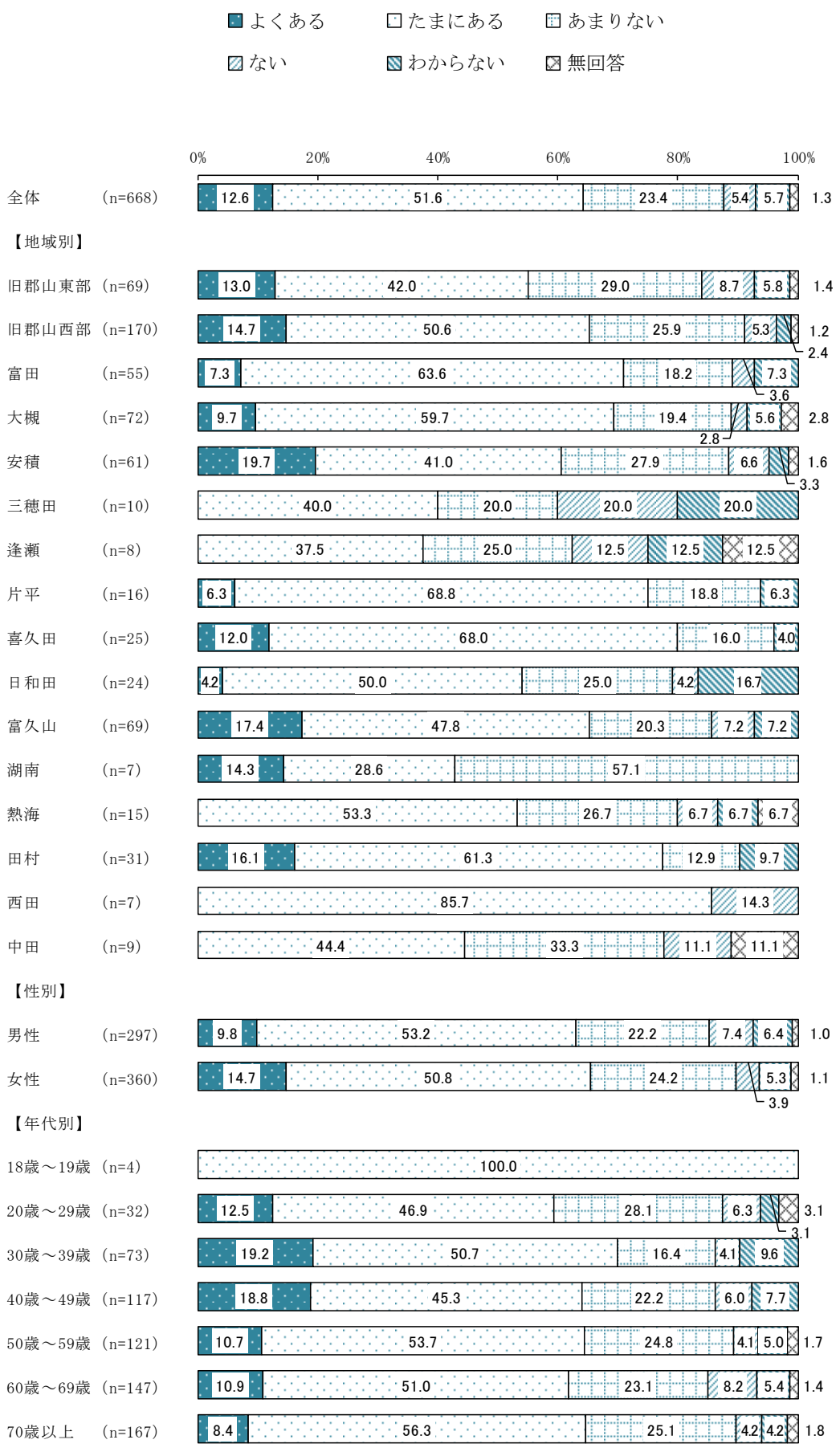
①　性別

「よくある」または「たまにある」と回答した方は、女性（65.5%）の方が男性（63.0%）よりもやや高くなっています。

②　年代別

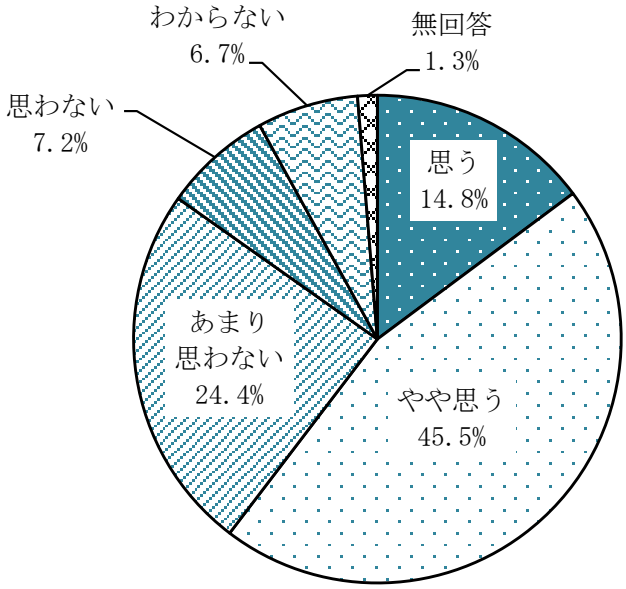
「よくある」または「たまにある」と回答した方は、30 代（69.9%）で最も高くなっています。

図４－２　思いやりの心について（地域別／性別／年代別）



（３）市内施設の利用しやすさ

問　市内にある施設（市役所などの公的施設やスーパーなどの民間施設）は、利用しやすいものになっていると思いますか。あてはまる番号を１つ選び、○印をつけてください。



(n=663)

約６割の市民が利用しやすいと思っている

【全体結果】

利用しやすいと「思う」または「やや思う」と回答した方は60.3%となっています。

【属性別結果】（図 4-3 参照）

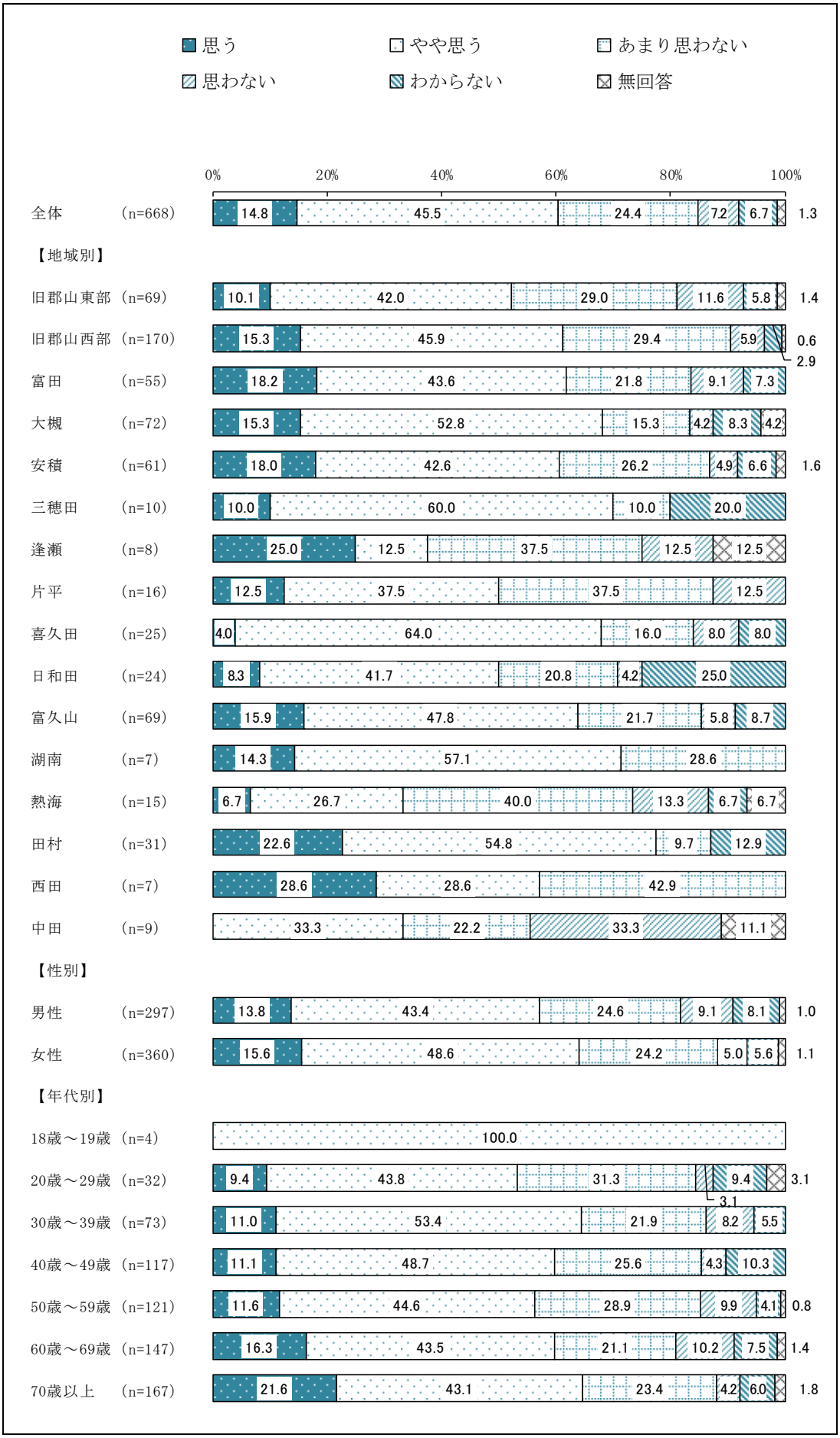
①　性別

「思う」または「やや思う」と回答した方は、女性（64.2%）の方が男性（57.2%）よりも高くなっています。

②　年代別

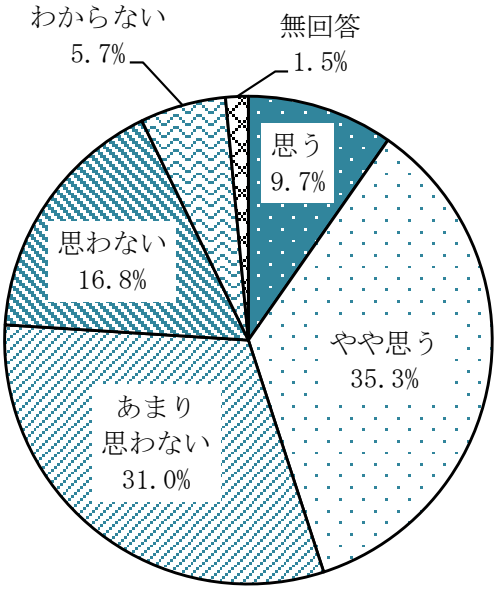
年齢が上がるにつれて「思う」の割合が増加しています。70 代以上では 21.6%が「思う」と回答しています。

図４－３　市内施設の利用しやすさ（地域別／性別／年代別）



（４）市内の道路などの利用しやすさ

問　市内の道路や歩道、駅やバスターミナルなどは、安心して移動し、利用できるものになっていると思いますか。
あてはまる番号を１つ選び、○印をつけてください。



(n=663)

４割強の市民が利用しやすいと思っている

【全体結果】

利用しやすいと「思う」または「やや思う」と回答した方は 45.0%となっています。

【属性別結果】（図 4-4 参照）

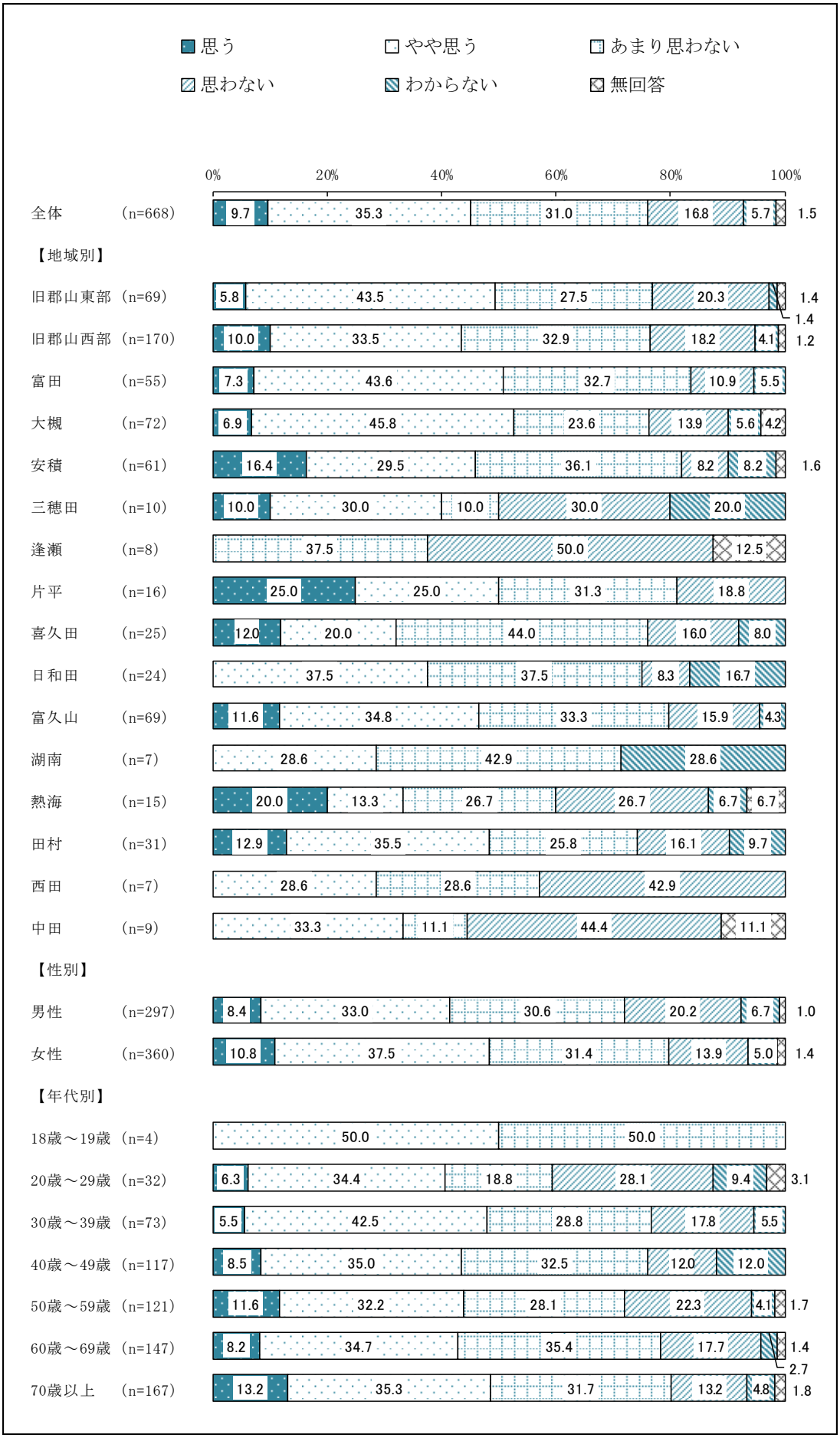
①　性別

「思う」または「やや思う」と回答した方は、女性（48.3%）の方が男性（41.4%）よりも高くなっています。

②　年代別

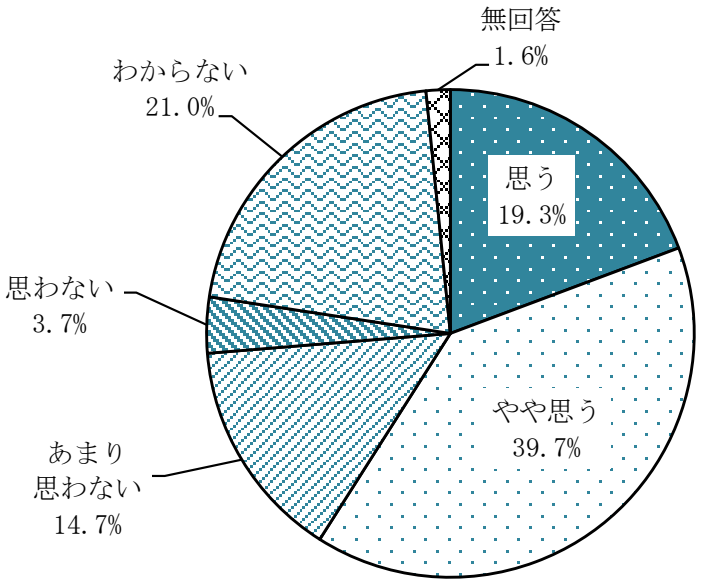
「思う」または「やや思う」と回答した方は、30 代（48.0%）と 70 代以上（48.5%）の２つの年代で高くなっています。

図４－４　市内の道路などの利用しやすさ（地域別／性別／年代別）



（５）市が発信する情報の理解のしやすさ

問　広報こおりやまや市のウェブサイトなど、市が発信する情報は、やさしい日本語など、理解しやすいものになっていると思いますか。
あてはまる番号を１つ選び、○印をつけてください。



(n=663)

約６割の市民が理解しやすいと思っている

【全体結果】

理解しやすいと「思う」または「やや思う」と回答した方は 59.0%となっています。

【属性別結果】（図 4-5 参照）

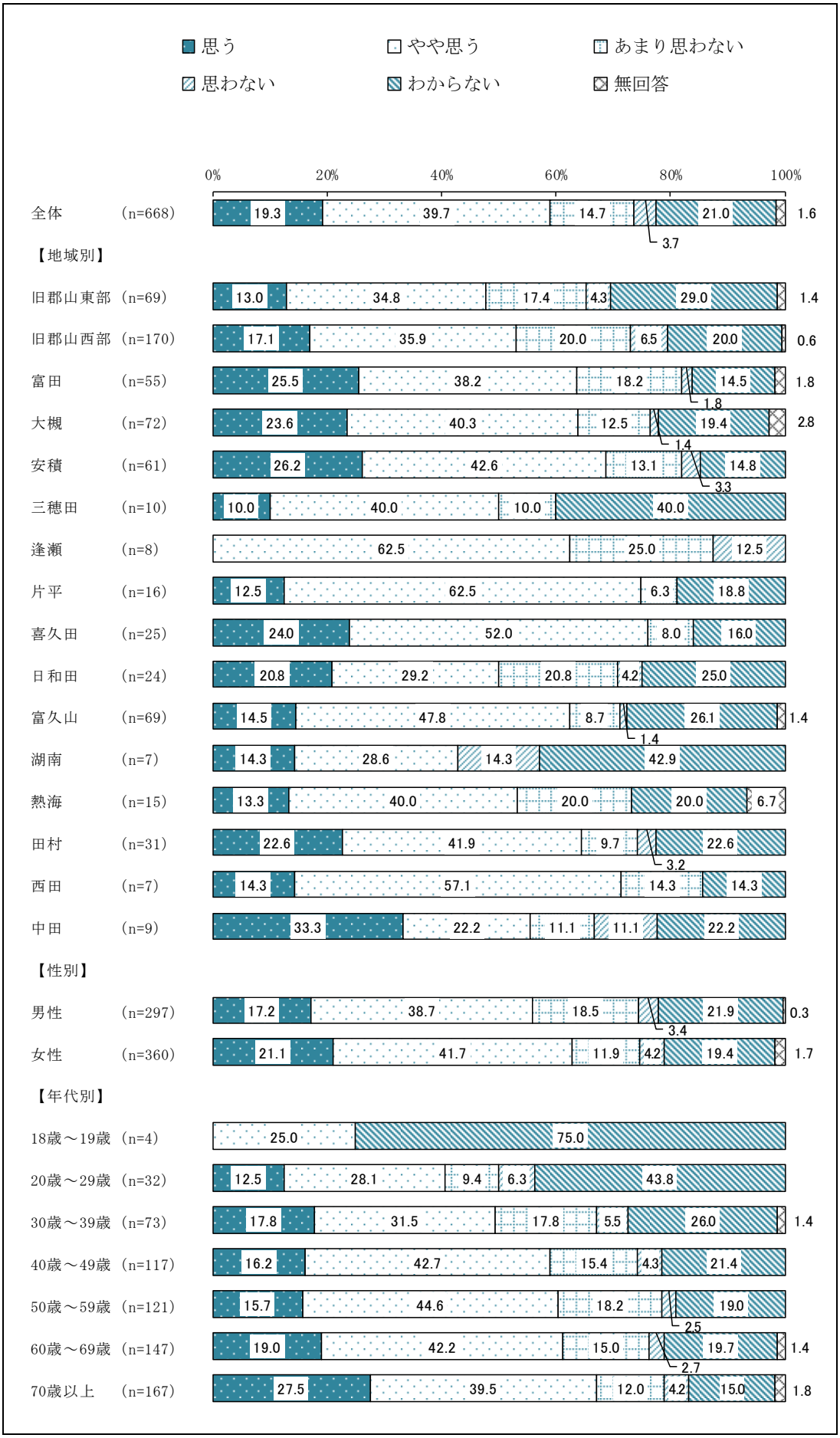
①　性別

「思う」または「やや思う」と回答した方は、女性（62.8%）の方が男性（55.9%）よりも高くなっています。

②　年代別

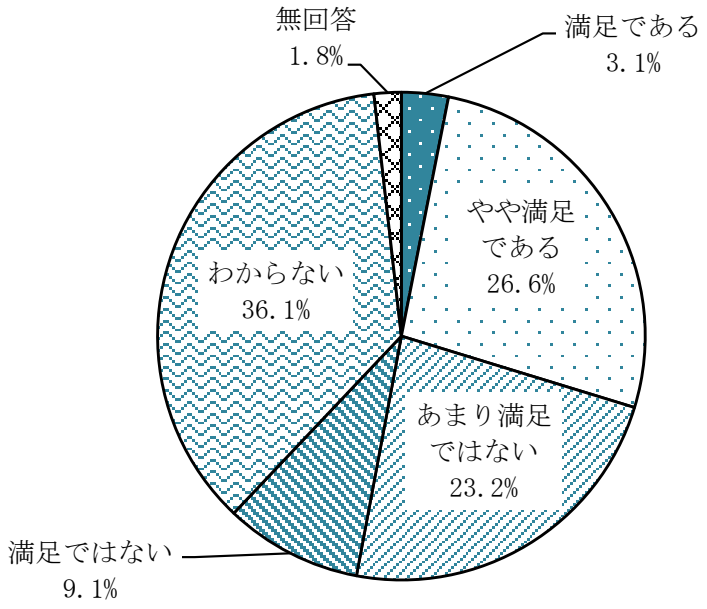
全体的に見ると、「やや思う」の割合が 30 代以上のすべての年齢層で最も高く、特に 40～60 代の年齢層で顕著です。また、20 代では「わからない」の割合が高くなっています。「思う」と回答した割合は高齢層で最も高く、若年層では比較的低い傾向となっています。

図４－５　市が発信する情報の理解しやすさ（地域別／性別／年代別）



（６）市の取組みに対する満足度

問　市は、ユニバーサルデザインのまちづくりに取組んでいますが、市の取組みに対するあなたの満足度はどの程度ですか。
あてはまる番号を１つ選び、○印をつけてください。



―――――――――― 約３割の市民が満足している ――――――――――

【全体結果】

「満足である」または「やや満足である」と回答した方は 29.7%となっています。また「わからない」と回答した方が最も多く 36.1%を占めています。

【属性別結果】（図 4-6 参照）

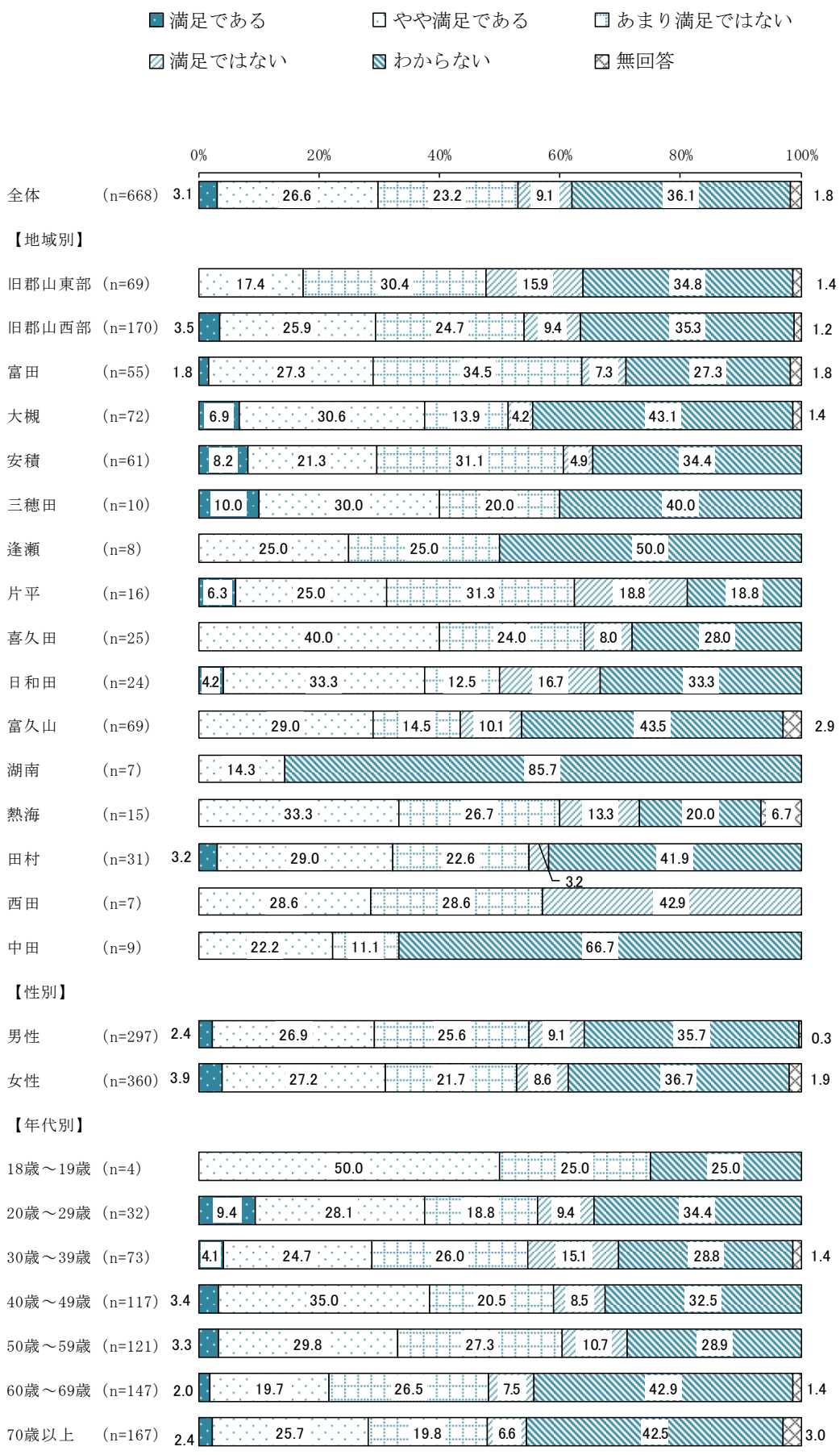
① 性別

「満足である」または「やや満足である」と回答した方は、女性（31.1%）の方が男性（29.3%）よりもやや高くなっています。

② 年代別

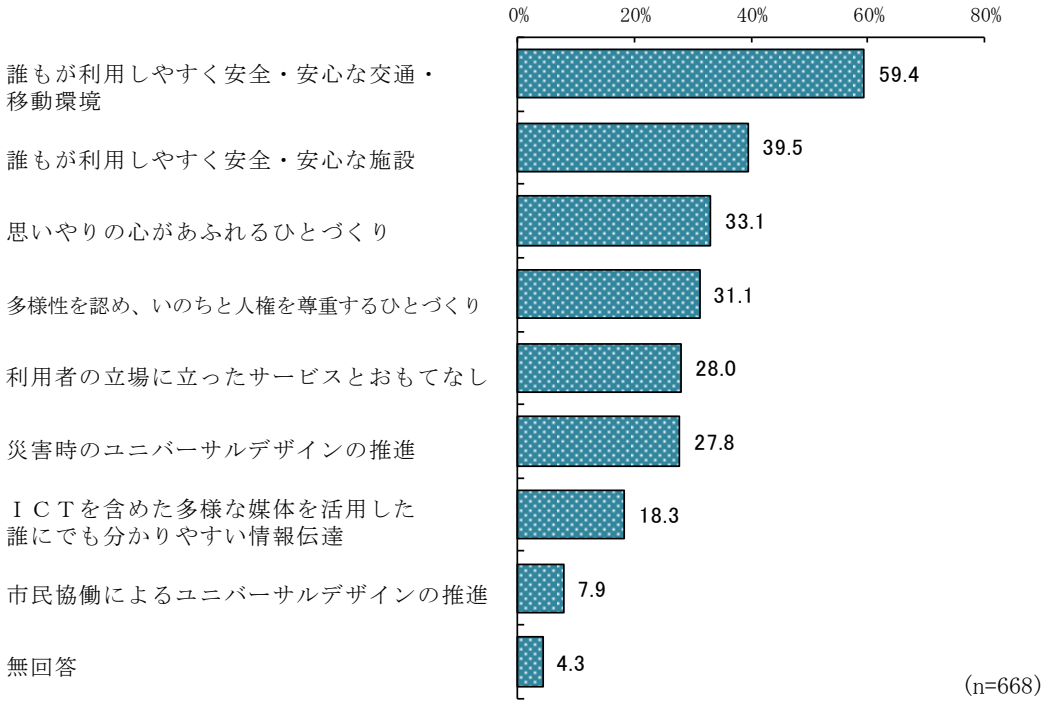
高齢層（60 代以上）では「満足である」「やや満足である」と回答した割合が３割弱であり、「わからない」と回答した割合が４割強を占めています。

図４－６　市の取組みに対する満足度（地域別／性別／年代別）



（７）優先的に取り組むべき分野（複数回答）

問　「ユニバーサルデザインのまちづくり」を進める上で、市が優先的に取り組むべき分野はどれだと思いますか。
あてはまる番号を全て選び、○印をつけてください。



―　約６割の市民が「誰もが利用しやすく安全・安心な交通・移動環境」への取組みを重視している　―

【全体結果】

市が優先的に取り組むべき分野は「誰もが利用しやすく安全･安心な交通･移動環境」が 59.4％で最も多く、次いで「誰もが利用しやすく安全・安心な施設」が 39.5％、「思いやりの心があふれるひとづくり」が 33.1％となっています。

【属性別結果】（図 4-7 参照）

①　性別

性別での大きな差はみられません。

②　年代別

すべて年齢層で「誰もが利用しやすく安全・安心な交通・移動環境」を選択した方が５割を超えており、重視する傾向があります。

図４－７　優先的に取り組むべき分野～1/3～（地域別／性別／年代別）

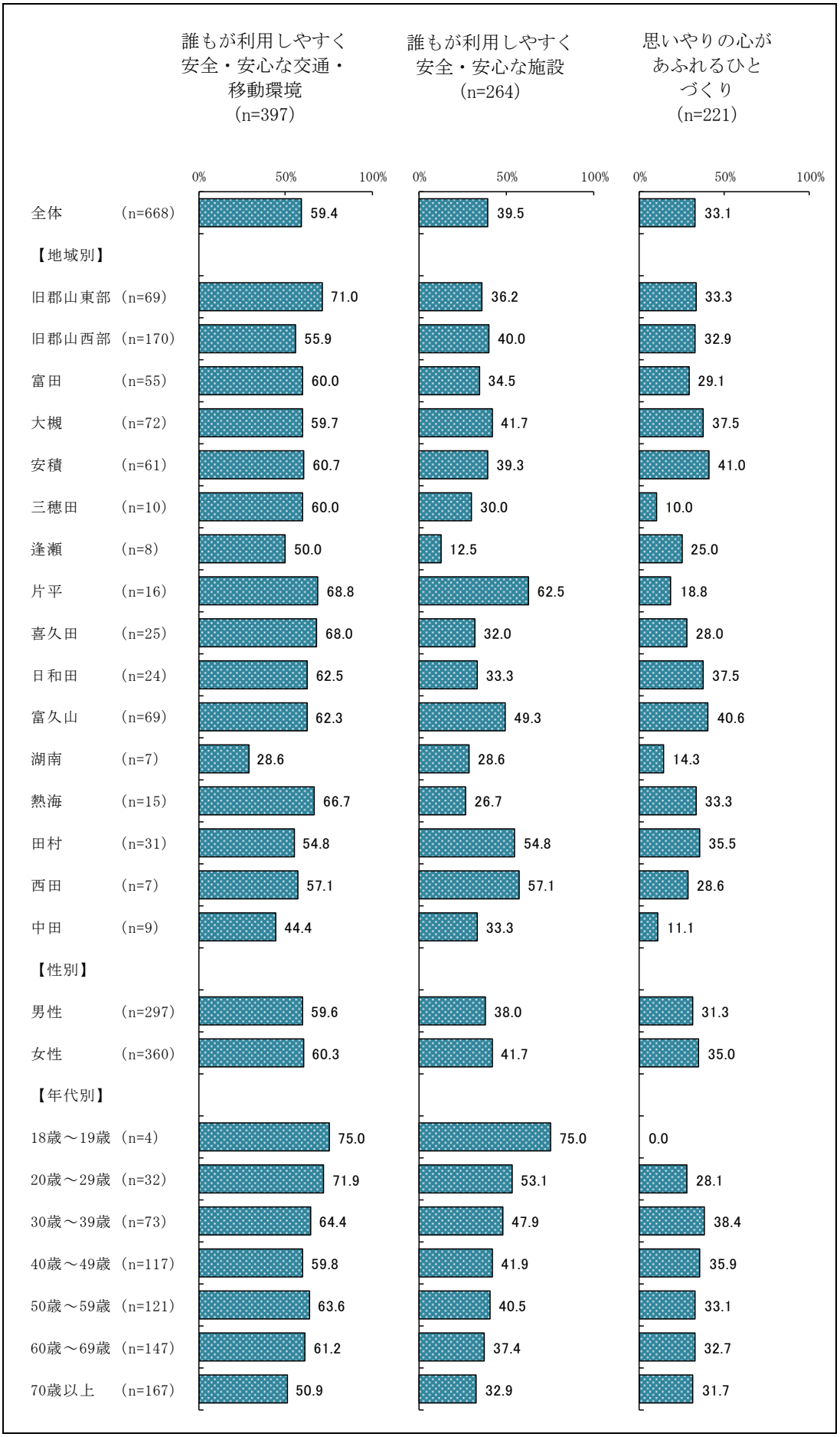
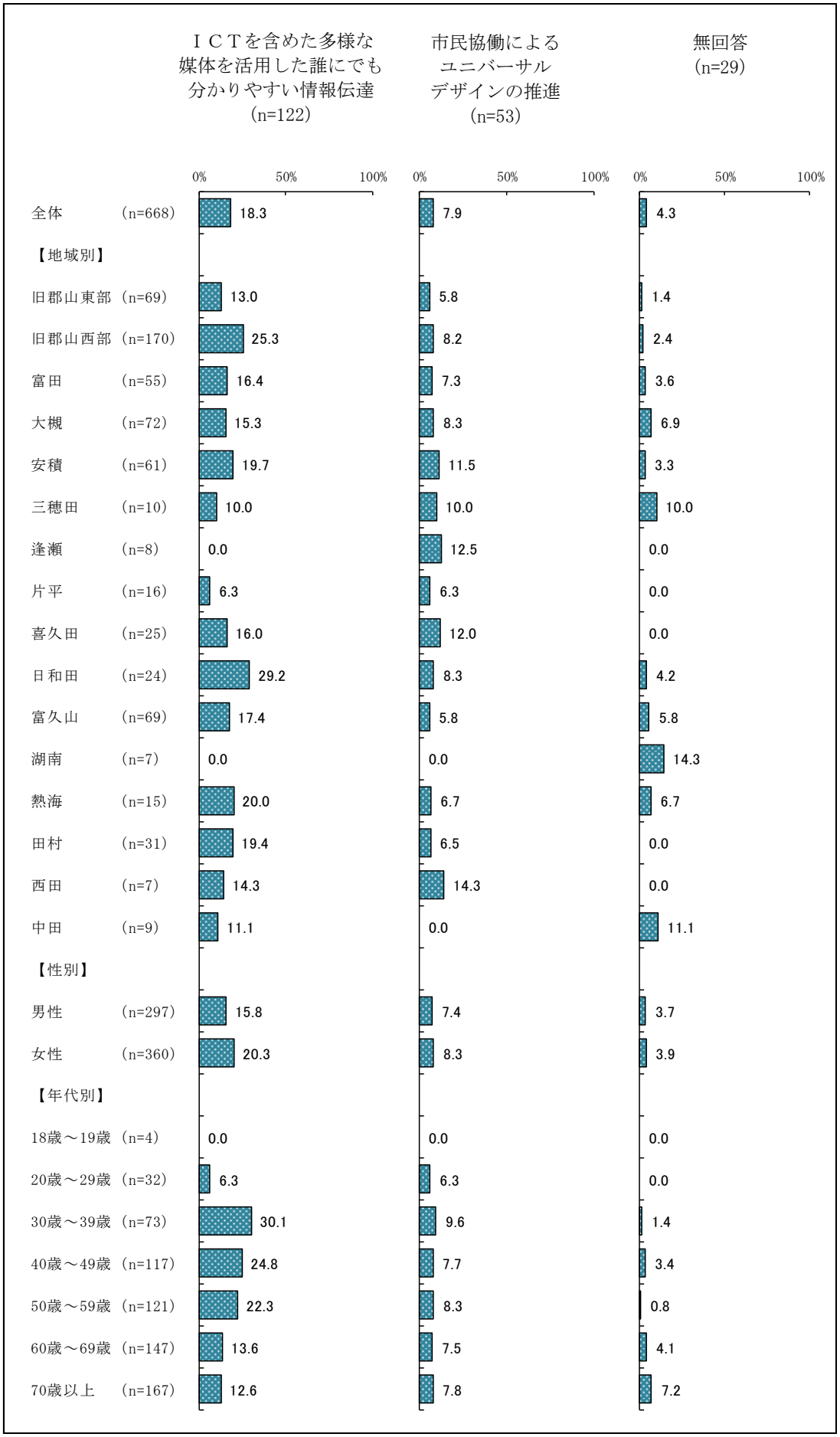


図４－７　優先的に取り組むべき分野～2/3～（地域別／性別／年代別）

図４－７　優先的に取り組むべき分野～3/3～（地域別／性別／年代別）



（８）ユニバーサルデザインのまちづくりについての意見等（自由記載）

問　ユニバーサルデザインのまちづくりを進めるために、 その他ご意見がありましたらご自由にお書きください。（自由記載）

ユニバーサルデザインのまちづくりについてたくさんのご意見が寄せられました。主な意見は以下のとおりとなります。

【ハート面】

- ユニバーサルデザインという言葉や事業のわかりやすい周知徹底がまず必要と思う。（男性・60 代）
- 何年も前から言っているわりには、ほとんどすすんでいないのが現状である。必要としているものごとはどのようなものかを各人がもっと体験できる場を多くして理解を深めるべき。（女性・60 代）
- ユニバーサルデザインという言葉と意味が理解できない。３Ｒ、５Ｒ、ＳＤＧＳ、ＤＸ等日本語でわかるような表現はできないのか。私はなぜか取り残されたような気分になっている。そう感じるのは私だけでしょうか。（女性・70 代以上）
- まずは、デザインの認知度を上げるための簡単な冊子を配布し、誰でもすぐ調べられる環境にする。その意味が浸透すれば自然と思いやりを持てると思う。（例えば、妊婦さん、視覚、聴覚などの障害情報）（女性・40 代）
- 障害を持った方が、他の健常者と同じように喜びや楽しみを感じられることが大切、大きなことではなく、外食や買い物日常的なことに目を向けるといいと思う。（男性・20 代）

【ハード面】

- 声で案内する信号機を増やしてほしい。段差がいたるところにあるので、なくしてほしい。標識が見えにくい。高齢者にも見えやすいようにもう少し大きくしてほしい。駅の改札が狭い。どんな人でも通りやすいように広げるべき。ノンステップバスを増やしてほしい。駅の階段に手すりを付けてほしい。バスや電車の優先スペースの拡張。（女性・50 代）
- 高齢者や子ども達により住みやすく暮らしやすい生活環境のさらなる充実。（男性・70 代以上）
- 路線バスを段差のない利用しやすいバスの車内にして、利用しやすく、誰もが利用しやすい様に、時間通りに来てくれる様に努力してほしい。（男性・30 代）
- ＵＤだけ単体で考えるのではなく、ＳＤＧＳや他の物と連動して考えなければならない。Ex）①ＳＤＧＳ（ここでは低炭素社会）の実現のため、市民の公共交通の利用を促進すると共に、自転車移動を促進。そのために自転車ルールの徹底、市道県道への自転車専用レーンを増加（現在あまりにも逆走が多い）②①に負荷して交通移動に関するＵＤ化を促進、マイカー通勤から公共交通活用へのＤＸを利用したＵＤ化。（男性・50 代）

・ 仕事でバスを利用するのですが、バスが時間通りに来ず困ることがあります。周りの方も同じように感じている方も多いので、時間通り来れるようなしくみ、工夫がされていけばより安心です。（女性・30 代）
・ バリアフリーを意識してるのは感じられるが実際には車いすでは通れない歩道が多々ある屈折した踏切など車いすの前輪がハマりやすい道路も多い。（男性・50 代）

【ソフト面】
・ 情報の整理が必要です。日本は多くを行い過ぎているので、まずは情報を整理し、優先順位を明らかにした方がよいと思う。（男性・40 代）
・ ＩＣＴに関して。ＬＩＮＥで情報という感じだと思いますが、ＬＩＮＥをやっていない場合は情報はどちらで？と思います。あえてＬＩＮＥをやりたくない人もいるのですが。（女性・50 代）
・ 案内表示や広報紙など目に触れる情報について、①漢字にルビをふる。②（キーワードだけでも）英語の訳文を付けるを徹底してはどうか。特に①。漢字にルビをふって平仮名読みができるだけでも、子どもにも外国人にも理解しやすくなると思う。（男性・40 代）
・ 大きい文字表記、音声ガイダンス（声大き目）。（女性・40 代）
・ ＩＣＴ含めた情報伝達はこれからの主流になると思うが、私の両親（80 代）はスマホを持っていてもＬＩＮＥの使い方もわからない。高齢者への使い方レクチャー会とかあれば、いろんな情報交換ができるし、災害時にも役立つ。（女性・60 代）
・ スマホが苦手な人々にとり、常時対応してくれるサービスがあればありがたいです。（女性・70 代以上）
・ 道路標識やマップ、市の広報等、外国籍の人にも伝わりやすいよう、デザイン・言葉を工夫してほしい。（男性・40 代）